第２期関西観光・文化振興計画

【計画期間：令和４年度～令和８年度】

令和４（2022）年３月

関　西　広　域　連　合

広域観光・文化・スポーツ振興局

目　次

Ⅰ　計画策定の趣旨と期間

１　計画策定の趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１

２　計画の期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１

Ⅱ　関西の観光・文化を取り巻く現状と課題

１　現状・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２

２　課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11

Ⅲ　文化・観光を通じた関西の将来像

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13

Ⅳ　将来像実現のための戦略

戦略１　文化をはじめとする多様な関西の魅力を活かした持続性の高い観光の推進

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14

戦略２　関西の観光・文化分野におけるDXの促進・・・・・・・・・・・・・・16

戦略３　多様な観光客への対応・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17

戦略４　関西文化に親しむ機会の創出・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17

戦略５　関西文化の次世代への保存・継承と発展・・・・・・・・・・・・・・18

戦略６　「大阪・関西万博」等を活用した観光・文化の推進・・・・・・・・19

戦略７　推進体制の確立・強化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20

Ⅴ　計画の目標

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21

Ⅰ　計画策定の趣旨と期間

１　計画策定の趣旨

関西では、王朝文学や能、狂言、歌舞伎、人形浄瑠璃、文楽に代表される伝統芸能が創始されるとともに、優れた美意識を背景に茶道や華道をはじめとする生活文化が育まれてきた。世界遺産をはじめ、国宝や重要文化財など、有形、無形の文化遺産が多く集積する関西は、日本文化の精華が集まる世界有数の「古典の宝庫」であり、今も人々の生活の中に文化が息づいている。

これらの歴史と伝統ある関西文化は、経済と密接に関係し、伝統的な匠の技をはじめ「ものづくり」に活かされるとともに、美術工芸や現代アート、舞台芸術、生活文化に至るまで、世界に誇るべき日本の新たな文化創造の源泉となっている。

関西広域連合では、関西を魅力ある国際的な文化観光圏とし、関西の文化発信力を高めていくため、平成 24（2012）年 3 月に、2022 年 3 月までを計画期間とする「関西観光・文化振興計画」を策定し、府県の枠組みを越え、関西を一つとして捉える国際観光・文化振興の戦略的な取組方向を示した。その後、文化振興指針「『文化首都・関西』ビジョン」の策定や広域観光 DMO の一般財団法人関西観光本部（以下、関西観光本部）の設立などを踏まえて計画に改訂を加えながら、着実に計画の実現に取り組んできた。

この間、国際観光については、平成 25（2013）年に、日本政府観光局（JNTO）による統計開始以来、訪日外国人旅行者数が初めて 1,000 万人を超えた。その後もビザの発給緩和や円安の効果もあり、令和元（2019）年には訪日外国人旅行者が 3,180 万人に達し、世界で 12 位、アジアで 4 位の外国人訪問者数となるなど、インバウンド市場が急激に拡大した。

文化振興については、令和 2 年度までに文化庁により認定された日本遺産 104 件のうち 32 件を関西が占めるなど、関西各地で文化を基盤とした取組が広がってきた。

しかしながら、令和 2（2020）年、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大により、観光需要が激減するとともに、公演やイベントの中止・延期に伴い文化芸術分野における発表や鑑賞の機会が失われるほか、多くの分野において深刻な影響を与えている。

令和 4（2022）年 4 月からスタートする新たな計画は、こうした厳しい状況下で生じた人々の価値観の変化や新しい生活様式の浸透を踏まえるとともに、持続可能な開発目標（SDGs）やデジタル・トランスフォーメーション（DX）などの時代の変化に対応しつつ、令和 4（2022）年度に予定されている「文化庁の関西移転」や「2025 年日本国際博覧会（以下、大阪・関西万博）開催」などを新たなステージに向けた成長への好機と捉え、観光、文化が互いをさらに高め合い、関西が一丸となって取り組む国際観光振興及び文化振興の戦略を示すものとして策定する。

２　計画の期間

計画期間は、令和 4（2022）年 4 月から令和 9（2027）年 3 月までの 5 年間とする。

ただし、新型コロナウイルス感染症の影響及びインバウンドの回復の状況により戦略を見直す必要が生じた場合や、その他社会・経済情勢の変化に起因する新たな課題等が生じた場合は、計画の見直しを行うこととする。

Ⅱ　関西の観光・文化を取り巻く現状と課題

１　現状

（１）国際観光の状況

訪日外国人旅行者数は、令和元(2019)年までは、ビザの発給緩和や海外向けの積極的なプロモーションをはじめとする様々な取組により 7 年連続で過去最高を更新し、世界の観光市場においても一定の地位を確立するに至っていたが、令和 2(2020)年は、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行に伴い、各国・地域において感染拡大防止策の一環として一部の例外を除いて国境をまたぐ往来が停止されている影響等により、2 月以降大きく減少している。

関西を訪れた外国人旅行者の状況についても推計値ではあるが、令和元（2019）年に約 1,320 万人（※1)、観光消費額は約 1.2 兆円（※2）と上昇していた。特に、外国人宿泊者数について、平成 25（2013）年から令和元（2019）年の 7 年間の関西の増加率は 460%であり、全国の増加率 245%を大幅に上回った。

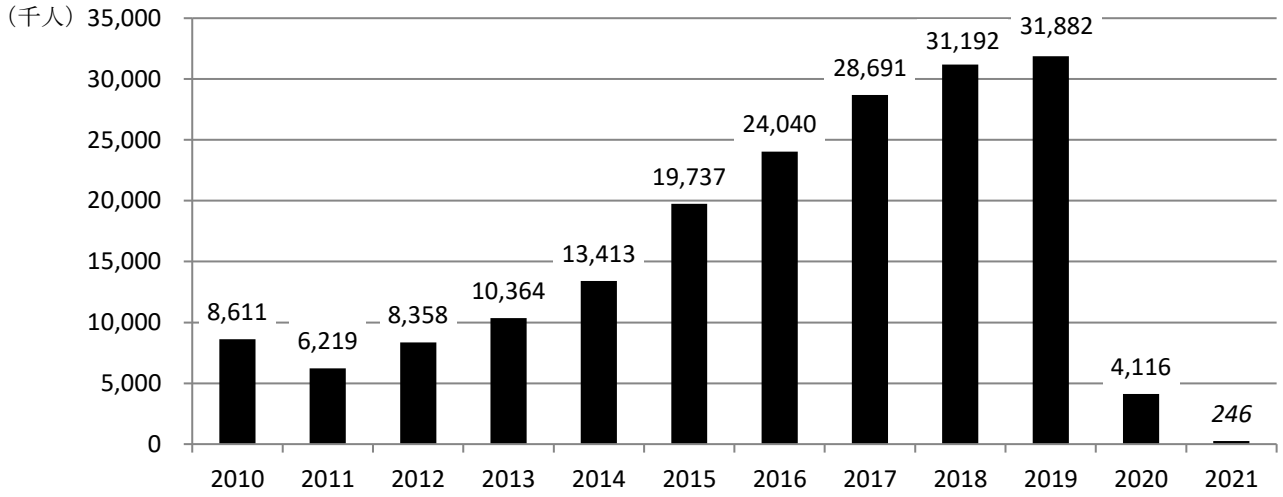
また、訪日外国人旅行者数の関西への訪問率は、関東に次いで高く、平成 25（2013）年の 33.3%から令和元（2019）年は 41.4%になるなど、全国で最も高い伸びを示した。

※1　全国数値に近畿運輸局管内訪問率を乗じて算出

※2　観光庁「旅行・観光消費動向調査」のうち構成府県の数値から算出

【参考データ】

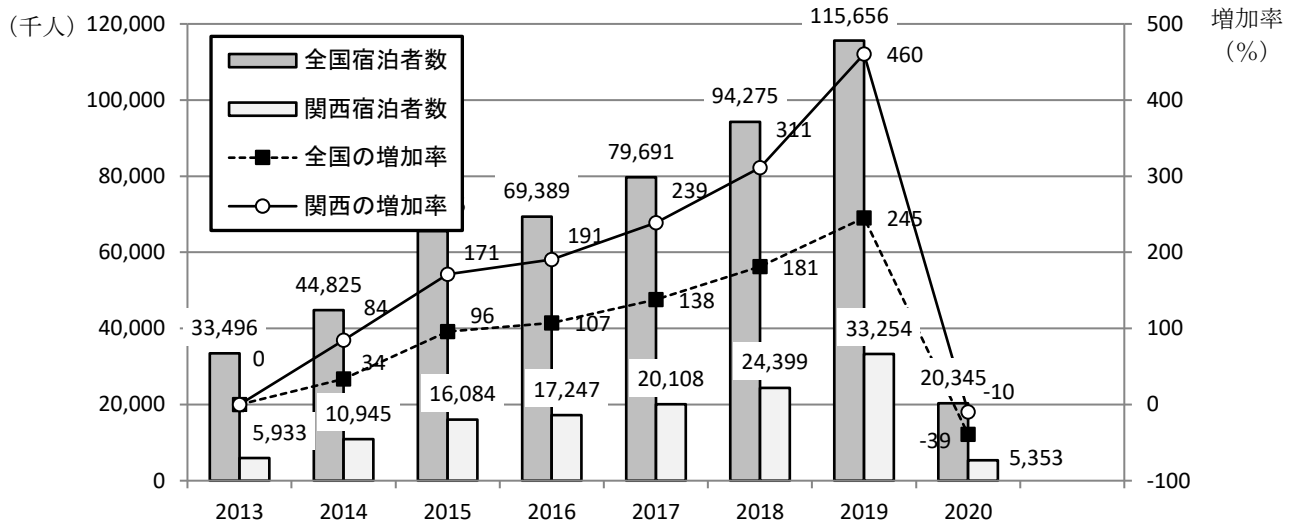
①　訪日外国人旅行者の推移



出典）日本政府観光局「訪日外客統計」

※2021 年（斜体）は推計値

② 全国及び関西における訪日外国人延べ宿泊者数の推移

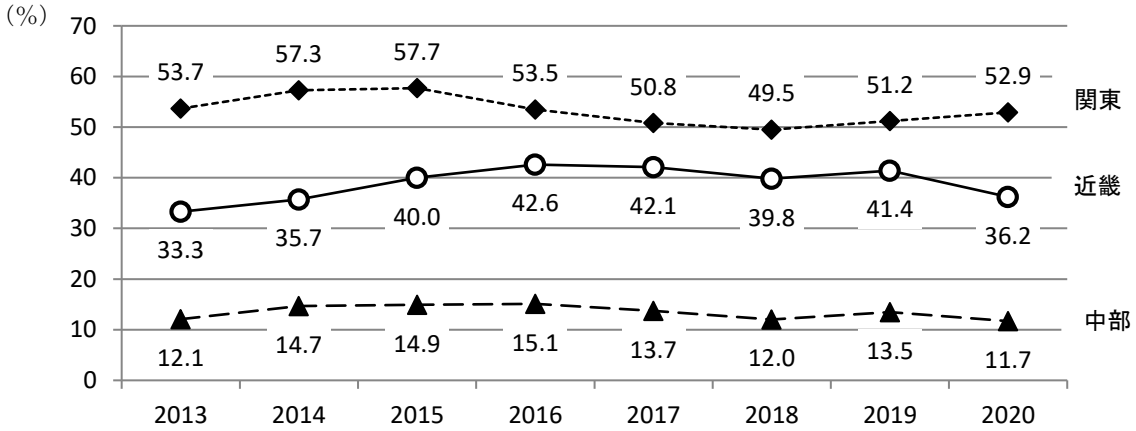


出典）観光庁「宿泊旅行統計調査」

※関西：滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、徳島県

※増加率は、2013 年を基準年とした場合の各年における延べ宿泊者数の指数

③ 運輸局別の訪日外国人訪問率の推移



出典）観光庁「訪日外国人消費動向調査」

※近畿：滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県

※2020 年は新型コロナウイルス感染症の影響により調査が中止となったため、2020 年 1～3 月期の値

（２）文化資源の集積と多様化

関西には、有形・無形の文化財や古墳などの記念物、多彩な食文化などに代表される豊かな文化資源が集積し、ユネスコの登録世界遺産として、奈良・京都の社寺や姫路城などの歴史的建造物、紀伊山地の霊場と参詣道、百舌鳥・古市古墳群の 6 件が登録されており、日本で登録された世界文化遺産の約 1/4 を占める。「日本遺産」についても関西には全国の 3 割に相当する 32 件が登録されている。また近年は、このような豊かな伝統文化が根付いた土壌から、マンガ、アニメ等の新しいコンテンツ文化が育まれ、アニメの聖地とされる地域・エリアが数多く生まれ、関連事業所等の立地等も進んでいる。

さらには、文楽などの舞台芸術、各地域における行催事や伝統技術・工芸など、多様な

魅力が継承されているほか、芸術系の大学や専門学校等が立地し、数多くの人材が輩出されている。

【参考データ】

④　文化財件数等

◆　文化財件数（国・都道府県・市町村指定合計）

	有形文化財			無形文化財			民俗文化財	
	建造物		美術工芸品	芸能	工芸技術	その他	有形	無形
	件数	棟数						
全国	14,811	22,517	71,513	378	422	71	6,018	8,484
関西計	3,162	5,402	12,795	28	64	5	577	806
全国比	21.3%	24.0%	17.9%	7.4%	15.2%	7.0%	9.6%	9.5%

	記念物			文化的景観	伝統的建造物群保存地区	保存技術	合計
	史跡	名勝	天然記念物				
全国	17,921	1,548	14,884	94	234	130	136,508
関西計	1,874	366	1,474	28	49	62	21,290
全国比	10.5%	23.6%	9.9%	29.8%	20.9%	47.7%	15.6%

出典）文化庁 web サイト（国指定については令和 3(2021)年 12 月 1 日現在、都道府県及び市町村指定については令和 3(2021)年 5 月 1 日現在）

⑤　世界遺産・日本遺産

○　世界遺産

◆　関西の世界遺産

資産名	所在地	記載年	区分
法隆寺地域の仏教建造物	奈良県	平成 5 年	文化
姫路城	兵庫県	平成 5 年	文化
古都京都の文化財（京都市、宇治市、大津市）	京都府・滋賀県	平成 6 年	文化
古都奈良の文化財	奈良県	平成 10 年	文化
紀伊山地の霊場と参詣道	三重県・奈良県・和歌山県	平成 16 年	文化
百舌鳥・古市古墳群 - 古代日本の墳墓群 -	大阪府	令和元年	文化

出典）文化庁 web サイト（令和 3(2021)年 7 月 31 日現在）

○　日本遺産

◆　関西の日本遺産

名称	所在地
琵琶湖とその水辺景観～祈りと暮らしの水遺産～	滋賀県
日本茶 800 年の歴史散歩	京都府
丹波篠山デカンショ節－民謡に乗せて歌い継ぐふるさとの記憶－	兵庫県
日本国創成のとき～飛鳥を翔（かけ）た女性たち～	奈良県
六根清浄と六感治癒の地～日本一危ない国宝鑑賞と世界屈指のラドン泉～	鳥取県
「四国遍路」～回遊型巡礼路と独自の巡礼文化～	徳島県・愛媛県・高知県・香川県
『古事記』の冒頭を飾る「国生みの島・淡路」～古代国家を支えた海人の営み～	兵庫県
森に育まれ，森を育んだ人々の暮らしとこころ～美林連なる造林発祥の地“吉野”～	奈良県
鯨とともに生きる	和歌山県
地蔵信仰が育んだ日本最大の大山牛馬市	鳥取県
鎮守府　横須賀・呉・佐世保・舞鶴～日本近代化の躍動を体感できるまち～	京都府・広島県・神奈川県・長崎県
荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～	京都府・大阪府・兵庫県・鳥取県・北海道・青森県・秋田県・山形県・新潟県・富山県・石川県・福井県・島根県・岡山県・広島県・香川県
忍びの里　伊賀・甲賀―リアル忍者を求めて―	滋賀県・三重県
300 年を紡ぐ絹が織り成す丹後ちりめん回廊	京都府
1400 年に渡る悠久の歴史を伝える「最古の国道」～竹内街道・横大路（大道）～	大阪府・奈良県
播但貫く、銀の馬車道 鉱石の道～資源大国日本の記憶をたどる 73㎞の轍～	兵庫県
絶景の宝庫 和歌の浦	和歌山県
「最初の一滴」醤油醸造の発祥の地 紀州湯浅	和歌山県
きっと恋する六古窯―日本生まれ日本育ちのやきもの産地―	滋賀県・兵庫県・岡山県・福井県・愛知県
「百世の安堵」～津波と復興の記憶が生きる広川の防災遺産～	和歌山県
1300 年つづく日本の終活の旅～西国三十三所観音巡礼～	滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県・和歌山県・岐阜県
旅引付と二枚の絵図が伝えるまち―中世日根荘の風景―	大阪府
中世に出逢えるまち～千年にわたり護られてきた中世文化遺産の宝庫～	大阪府
「日本第一」の塩を産したまち 播州赤穂	兵庫県
日本海の風が生んだ絶景と秘境－幸せを呼ぶ霊獣・麒麟が舞う大地「因幡・但馬」	鳥取県・兵庫県
藍のふるさと　阿波～日本中を染め上げた至高の青を訪ねて～	徳島県
海を越えた鉄道 ～世界へつながる　鉄路のキセキ～	福井県・滋賀県
京都と大津を繋ぐ希望の水路　琵琶湖疏水～舟に乗り、歩いて触れる明治のひととき～	京都府・滋賀県
女性とともに今に息づく女人高野～時を超え、時に合わせて見守り続ける癒しの聖地～	大阪府・奈良県・和歌山県
「伊丹諸白」と「灘の生一本」下り酒が生んだ銘醸地、伊丹と灘五郷	兵庫県
もう、すべらせない！！～龍田古道の心臓部「亀の瀬」を越えてゆけ～	奈良県・大阪府
「葛城修験」－里人とともに守り伝える修験道はじまりの地－	和歌山県・大阪府・奈良県

出典）日本遺産ポータルサイト

⑥　アニメ文化

◆　関西の主なアニメ聖地

自治体名	アニメ作品	自治体名	アニメ作品
滋賀県犬上郡豊郷町	けいおん！※	兵庫県西宮市	空の境界※
滋賀県大津市	ちはやふる※	兵庫県西宮市	長門有希ちゃんの消失
京都府京都市	少年陰陽師	兵庫県西宮市	『涼宮ハルヒの憂鬱』シリーズ
京都府京都市	夜は短し歩けよ乙女	兵庫県宝塚市	宝塚市立手塚治虫記念館
京都府京都市	薄桜鬼 真改	奈良県十津川村	RDG　レッドデータガール
京都府京都市	京都国際マンガミュージアム	和歌山県和歌山市	貧乏神が！※
京都府京都市	有頂天家族２	和歌山県美浜町	AIR※
京都府京都市	いなり、こんこん、恋いろは。	鳥取県北栄町	青山剛昌ふるさと館
京都府舞鶴市	艦隊これくしょんー艦これー	鳥取県倉吉市	ひなビタ♪
京都府京田辺市	一休さん	鳥取県倉吉市・三朝町	宇崎ちゃんは遊びたい！
大阪府大阪市	ハンドシェイカー	鳥取県境港市	水木しげるロード
大阪府堺市	ラブ★コン※	鳥取県境港市	ゲゲゲの鬼太郎
兵庫県神戸市	Fate シリーズ※	徳島県徳島市	おへんろ。
兵庫県尼崎市	忍たま乱太郎※	徳島県徳島市	マチ★アソビ

出典）一般社団法人アニメツーリズム協会　訪れてみたいアニメ聖地 88（2018～2022 年）
関西広域連合調べ（※）

⑦　芸術家・芸能就業者

○　芸術家人口

◆　職業（小分類）別 15 歳以上就業者数（抽出調査）

	計	著述家	彫刻家，画家，工芸美術家	デザイナー	写真家，映像撮影者	音楽家	舞踊家，俳優，演出家，演芸家
全国	398,050	25,290	37,820	193,830	63,970	23,180	53,960
関西計	63,260	3,210	5,430	34,910	10,040	3,290	6,380
全国比	15.9%	12.7%	14.4%	18.0%	15.7%	14.2%	11.8%

出典）平成 27 年国勢調査

（３）文化庁の関西移転を契機とした新たな文化行政の推進

平成 29（2017）年に文化芸術基本法が施行され、「文化芸術の振興にとどまらず、観光・まちづくり・国際交流・福祉・教育・産業・その他の各関連分野における施策を法律の範囲に取り込むこと」や「文化芸術により生み出される様々な価値を文化芸術の継承・発展及び創造に活用すること」が定められた。

また、令和 2（2020）年には文化観光推進法が施行され、文化・観光の振興と地域の活性化をより進めるため、「観光客が文化についての理解をより深めることを目的とする文化観光の推進」や「文化について理解を深める解説・紹介」、「博物館等と観光関連事業者との連携」等が定められた。こうした法律のもと、令和 4（2022）年度中の文化庁の関西移転を契機に新たな文化行政の推進が求められている。

（４）「大阪・関西万博」等をはじめとする国際イベントの開催等

令和元（2019）年に、「第 14 回 20 か国・地域首脳会合（G20 大阪サミット）」が大阪で開催され、関西にも世界中から注目が集まった。また、日本で初めて「ラグビーワールドカップ」が開催され、特に欧州、豪州を中心に多くの外国人が訪日した。これらの外国人は滞在日数も長く、経済波及効果が高かったという結果も出ている。

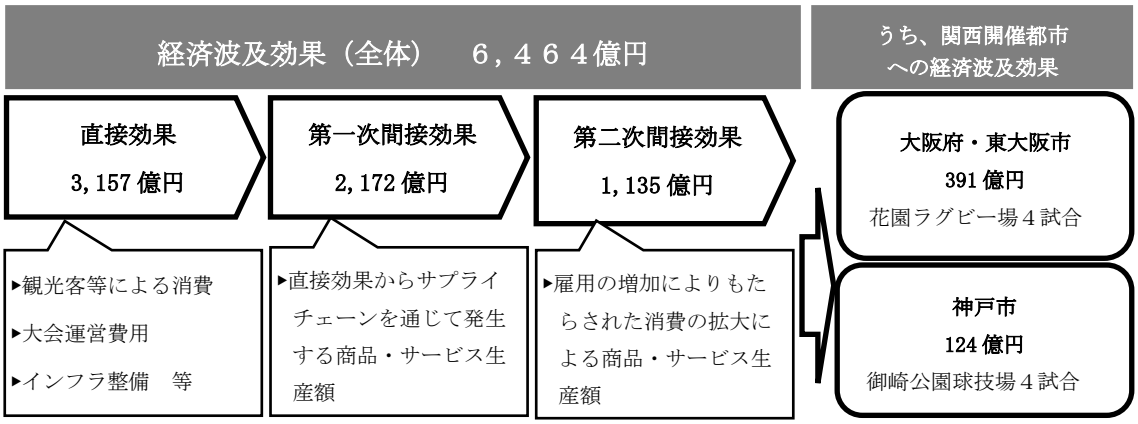
令和 4（2022）年には、アジア初かつ初めての広域開催となる「ワールドマスターズゲームズ 2021 関西」の開催が予定されていたが、新型コロナウイルス感染症の影響により再延期が決定された。

また、令和 7（2025）年には、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマにした「大阪・関西万博」の開催が予定されており、「国際博覧会」が持つ、世界から人・モノを呼び寄せる求心力と発信力を活かす取組が期待されている。

統合型リゾート（以下、IR）については、平成 28（2016）年に「特定複合観光施設区域の整備の推進に関する法律（以下、IR 推進法）」が公布・施行、令和 2（2020）年に「特定複合観光施設区域の整備のための基本的な方針」が決定され、関西においては、和歌山県が平成 30（2018）年、大阪府が令和元（2019）年にそれぞれ IR 基本構想を策定し、誘致に向けた取組を進めている。

【参考データ】

⑧　ラグビーワールドカップ 2019 日本大会の経済効果



出典）（公財）ラグビーワールドカップ 2019 組織委員会

（５）観光・文化を取り巻く新たな潮流

平成 29（2017）年に国連世界観光機関（UNWTO）が「持続可能な観光」を提言し、令和元（2019）年に、同機関が京都でユネスコと共同開催した「観光と文化をテーマとした国際会議」では、SDGs の達成に向けた観光や文化の活用等について議論が行われるなど、観光分野においても「サステナビリティ（持続可能性）」の潮流が生じている。

また、デジタル技術の進歩と生活への浸透は急速で、新型コロナウイルス感染症の拡大による人の移動制限等の影響もあり、オンラインツアーやライブ配信など観光や文化体験へのデジタル技術の活用が急速に広がっている。

さらに、年齢や国籍、障がいの有無等に関わらず、誰もが気兼ねなく参加し、楽しめるユニバーサルツーリズムの必要性や、ハラールのほかベジタリアン、ヴィーガンも含め

た「食」のユニバーサル対応も求められている。

（６）新型コロナウイルス感染症の影響

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大が続き、人々の移動と交流への制約が長期化する中で、観光を入り口とした地域経済を取り巻く状況は厳しさを増している。文化芸術活動においても、舞台芸術をはじめ広い分野で発表の機会が失われ、活動による収入が減少するとともに、文化芸術団体も経営困難になるほか、鑑賞の機会も失われるなど、大きな影響が出ている。

こうした中、新型コロナウイルス感染症の影響を変化の契機とし、文化芸術公演のライブ配信や録画配信、VR 等を用いた美術館の観覧など、デジタル技術を活用した文化芸術活動も展開されつつある。

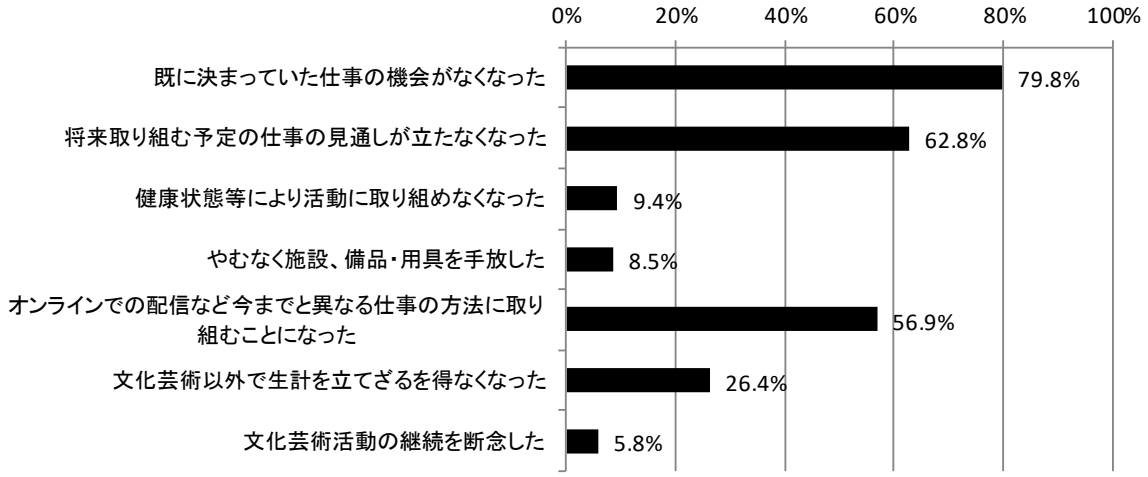
インバウンド需要については、民間の調査によると、これまでの訪日外国人観光客の大半を占めるアジア、欧米豪からの高い訪日意欲が衰えていないことから、いずれ回復すると見込まれている。

しかし、新型コロナウイルス感染症のまん延により人々の意識や行動に変化が生じており、例えば観光客が希望する旅行について、少人数化や近しい関係の人との旅行、地方都市や自然、屋外など密を回避する訪問先が好まれるなど、求める旅行形態に変化が生じていると考えられる。

【参考データ】

⑨　新型コロナウイルス感染症の影響（文化芸術分野）

○　新型コロナウイルス感染症の影響による環境の変化（複数回答）



出典）「文化芸術活動に携わる方々へのアンケート」（令和２年 12 月文化庁文化経済・国際課）

※　調査対象は、文学、音楽、美術・写真・デザイン、演劇・舞踊、メディア芸術、伝統芸能、大衆芸能、生活文化・国民娯楽などの分野の活動に関わる芸術家、実演家、教授・指導者、制作・技術スタッフ

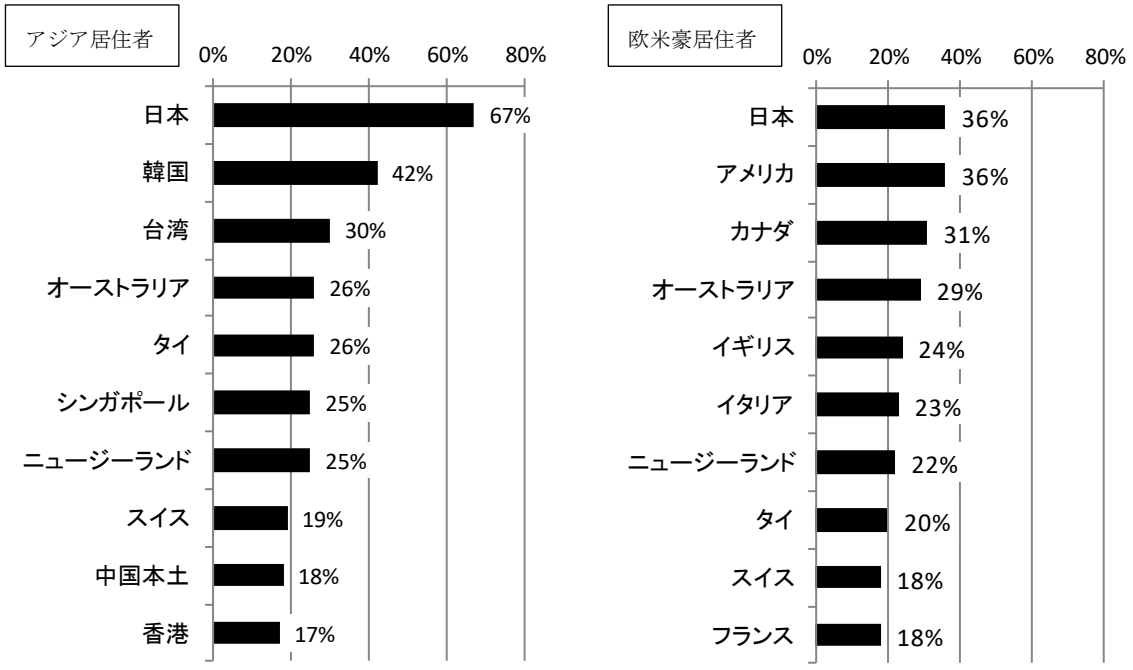
※　文化庁ホームページ上のオンラインフォーム及び LINE アンケート　有効回答 17,196 件

⑩　新型コロナウイルス感染症の影響（国際観光分野）

○　新型コロナウイルス感染症の拡大による嗜好の変化　－希望する旅行形態・同行者－

エリア		アジア居住者		欧米豪居住者	
区分／年別		2019 年	2020 年	2019 年	2020 年
旅行形態	フルパッケージツアー	35%	30%	29%	26%
	航空券と宿泊施設を個別に手配	32%	29%	30%	23%
	自身の嗜好によるガイド付きテーラーメイドツアー	17%	18%	19%	24%
	航空券と宿泊施設のみがセットになったパッケージ旅行	13%	18%	15%	20%
	航空券のみを出発前に手配（宿泊先は現地で手配）	3%	3%	2%	3%
同行者	配偶者・恋人	57%	65%	50%	67%
	自分の子ども	24%	32%	18%	30%
	友人	30%	29%	20%	18%
	一人で	8%	7%	20%	11%

○　次に海外旅行したい国・地域（複数回答、上位 10 位まで）



出典）「アジア・欧米豪 訪日外国人旅行者の意向調査（第 2 回 新型コロナ影響度 特別調査）」（令和 3 年 5 月、日本政策投資銀行及び公益財団法人日本交通公社）

※　調査対象は、韓国、中国、台湾、香港、タイ、シンガポール、マレーシア、インドネシア、アメリカ、オーストラリア、イギリス、フランスの 12 地域に居住する 20～59 歳の男女かつ海外旅行経験者 6,139 人、インターネットによる調査（2020 年 12 月 1 日～12 日）

関西広域連合による前計画期間（2012年4月から2022年3月）の主な取組

（１）広域観光の展開による関西への誘客（文化・スポーツ観光の展開）

・　関西の5つの世界遺産と7つの絶景等を巡る広域観光周遊ルート「美の伝説」や、食文化、自然環境、産業観光など、関西の強みを活かした広域観光周遊ルートの充実、ラグビーワールドカップ 2019 など国際的なスポーツ大会を活用したスポーツツーリズムなどのテーマ別観光の推進により、関西への誘客を図った。

（２）官民が一体となった広域連携DMOの取組の推進

・　2017年4月に、関西経済連合会と共に設立した広域連携DMO「関西観光本部」を中心に、マーケティングや海外向けの関西観光プロモーション、訪日外国人観光客の受入基盤整備支援、観光人材の育成など官民が一体となった取組を進めた。

（３）戦略的なプロモーションの展開

・　国や、関西エアポート株式会社など経済界とともに、中国やオーストラリア、フランス、イギリスなど海外へのトッププロモーションを行い、関西の認知度向上に取り組んできた。また、関西観光本部とも連携し、東アジア・東南アジア・欧米豪等における旅行博、商談会への参加、旅行会社やメディアを対象としたファムトリップなど効果的かつ戦略的なプロモーションを展開してきた。

（４）外国人観光客等の受入を拡大するための観光基盤の整備

・　関西の観光資源等に関し、質の高いガイドサービスが提供できるよう、関西の通訳案内士等を対象に講習会と現地研修会を開催した。また、無料 Wi-Fi への接続を簡易に行い、快適かつ安価な通信を提供するアプリ「KANSAI Wi-Fi (Official)」の普及拡大、「KANSAI ONE PASS」のエリアの拡大など受入環境の整備に努めた。さらに、日本遺産や魅せる文化財を活用しながら、「美の伝説」の取組をさらに発展させた「THE EXCITING KANSAI」など、関西に外国人観光客を引きつける様々な周遊ルートづくりを進めた。

・　外国人観光客の周遊を促進するため、「山陰海岸ジオパーク」、「南紀熊野ジオパーク」など関西の優れた地質景観スポットを活用した外国人向けフリーペーパーへの掲載や、web による情報発信を行った。

（５）関西文化の振興と国内外への魅力発信及び連携交流による関西文化の向上

・　関西の祭りや文化イベントの情報をweb上で検索できるようデータベース化するとともに、web上でアーティスト・イン・レジデンスをテーマとした国際シンポジウムを開催するなど、関西の先進的な取組を国内外に発信した。

・　住民が関西の文化にふれる機会づくりとして、関西2府8県の美術館や博物館などの文化施設の協力を得て入館料を無料とする「関西文化の日」事業や当該事業の期間を拡大する「関西文化の日プラス」事業を、関西元気文化圏推進協議会及び関西観光本部との連携により実施してきた。

・　関西の文化力の向上や機運醸成を図るために、2017年4月に先行移転した文化庁の地域文化創生本部や歴史街道推進協議会などとも連携し、歴史文化遺産フォーラムの開催や、パネル・リーフレット等による関西の世界文化遺産や日本遺産の情報発信を行った。

（６）関西文化の次世代継承

・　文化イベントにおいて若手芸術家が発表を行う機会を提供するとともに、若手文化人材の企画提案に基づき制作した関西の食文化 PR 映像を「’17 食博覧会・大阪」等において活用した。

・　次代を担う文化人材の育成を図るため、関西の子どもたちが伝統文化や生活文化を学び親しめる親子体験教室を開催した。

（７）情報発信・連携交流支援・人づくりを支えるプラットフォームの活用

・　様々な分野の専門家等と意見交換するためのプラットフォーム「はなやか関西・文化戦略会議」を立ち上げ、関西文化の振興策に関する検討を行った。

（８）文化庁の関西移転を見据えた新たな関西文化の振興

・　「東京 2020 オリンピック・パラリンピック」等の国際スポーツイベントの開催や文化庁の関西移転を見据えて、関西の持つ優れた伝統文化や地域文化の魅力を全国にアピールするため、実演を交えた「はなやか関西『文化の道』フォーラム」を開催した。

（９）その他の取組

・　IR について、休止していた KANSAI 統合型リゾート研究会（平成 23 年度に設置）を、IR 推進法の制定を受けて再開し、関西に IR が立地した場合の広域的なマイナスの影響を最小限にしながらプラスの効果を関西全体に行き渡らせるよう検討を進めた。

２　課題

（１）関西を輝かせる地域文化等による持続性の高い観光の推進

新型コロナウイルス感染症の拡大前のように、外国人観光客の訪問が一部地域に偏り、過度な集中を招くことがないよう、関西各地におけるコンテンツの魅力向上や、長期滞在に対応できる環境の整備、関西広域への来訪者の回遊の誘導等による訪問先の分散化や周囲の環境と調和した観光・文化資源の保全を図り、SDGs に貢献する「持続可能な観光」を実現することが求められる。

特に、関西の特長・魅力である有形・無形の文化財や生活文化、自然や気候、多彩な美術館・博物館なども観光資源として最大限に活用し、「滞在」、「体験」、「周遊」を通じて「持続可能な観光」の実現を目指す必要がある。

（２）関西の観光・文化の魅力の更なる向上や DX の促進

Society 5.0 を見据え、官民のデータ共有や活用を図り、AI などの ICT 技術によりデータを分析し、特徴や課題の可視化や分析の過程で得られたデータをもとに、 旅マエ・旅ナカなど時間軸に応じた情報提供などデータを基盤としたマーケティングやプロモーションに取り組む必要がある。

また、観光関連産業の DX 化を促進し、マーケティング、労働生産性やサービス水準の向上や、観光客の利便性向上に向けた予約・決済システム、多言語化対応などの取組も必要である。

文化分野においても、VR 等最新技術を利用した文化財の活用の促進などに取り組む必要がある。

（３）安心・安全に旅行できる受入環境整備と観光コンテンツの多様化

「大阪・関西万博」を契機に、関西には世界中の様々な国・地域からの来訪者が増えると見込まれることから、誰もが安心して旅行を楽しむことができるよう、食や宗教、生活習慣などに対応できる環境整備、災害や安心・安全に関する情報発信が求められる。

また、観光客の多様なニーズや旅行スタイルに対応できるよう、特別感や上質感のある体験の提供や、歴史や伝統文化をはじめとするテーマやストーリー性のある新たな魅力の創出などにより、国内外の観光客の関西全体への周遊や滞在につなげることが求められる。加えて、将来のインバウンドの需要創出が期待される「訪日教育旅行」についても、更なる活性化を図る必要がある。

（４）文化庁の関西移転を契機とした文化観光の推進と文化に親しむ機会の創出

文化庁では、文化芸術の振興にとどまらず、文化芸術を観光やまちづくり等他の分野に活用するなどの新たな文化行政が推進されており、文化庁の関西移転を契機に、関西においても、文化観光の取組や構成府県市とともに文化を基盤としたまちづくりにつながる取組を一層推進する必要がある。

また、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により国内外において文化芸術を発表する機会や鑑賞する機会が減少する中、文化の集積メリットを活かした魅力発信や交流によってお互いを高め合うことで、文化力を一層向上させ、文化に親しむ機会を創出する必要がある。

（５）文化の次世代への保存・継承と発展

少子高齢化などの社会情勢の変化に伴い文化芸術を担う人材が減少する中、次世代を担う若者や子ども達が文化への愛着を育めるよう、その魅力に触れる機会を創出することや文化活動への支援を行うことなどにより、文化の次世代への保存・継承と発展の実現を図る必要がある。

Ⅲ　文化・観光を通じた関西の将来像

新時代の文化・観光首都の創造

関西には、古（いにしえ）から長きにわたっていくつもの都が置かれ、茶の湯、人形浄瑠璃、祭りや豊かな食と伝統的な暮らしの知恵などのほか、熊野古道や茶畑景観など人々の生活や生業などにより形成された文化的景観など多様な日本の歴史・文化を継承、創造してきた。また、数多くの大学・教育機関が文化人材を輩出し、日本の歴史・文化を体験する機会を提供し、マンガ・アニメやゲームのコンテンツを創造するクリエイターや企業を生み出している。

このような重層的に集積された文化、豊かで多彩な自然・風土、その中で生活する先人たちが培ってきた関西各地の有形無形の多様な文化は、日本のホンモノ、そして原風景を体験する機会を提供し、国内外から多くの観光客を惹き付けている。関西文化は、関西各地を特徴付ける魅力を背景に、観光資源の世界的な宝庫となっている。関西の空の玄関口である関西国際空港や充実した鉄道網などがこれらの観光資源を結び、広域的にまとまった国際的な観光首都として関西はその役割を果たしている。

このように、文化・観光において、関西は実質的に我が国の首都としての役割を担ってきた。そして、ついに文化庁の関西への移転が実現する。関西は、物質文明から精神文明を重視する世界的な価値観の変化の中で、文化庁の関西移転、「大阪・関西万博」の開催などに象徴される新時代を迎えようとしている。

新型コロナウイルス感染症の拡大により、世界中が難局にある中、関西広域連合では、「文化や観光は、人々の精神を支える基本的、普遍的な価値を有し、SDGs が目指す未来を切り拓くもの」と捉え、世界の人々があこがれる、新しい時代の「文化・観光首都」である関西を創造していく。

Ⅳ　将来像実現のための戦略

『新時代の文化・観光首都の創造』の実現をめざし、関西広域連合によるこれまでの取組や観光・文化を取り巻く現状、課題を踏まえ、以下の戦略に取り組む。

戦略の推進にあたっては、SDGs に貢献する持続性の高い観光の推進に努め、「大阪・関西万博」や「ワールドマスターズゲームズ」をはじめとする関西で開催される大規模イベントを積極的に活用する。特に「大阪・関西万博」に向けて整備される交通インフラのほか、観光客の受入ノウハウ、ボランティア等の活躍などハード・ソフト両面に渡る多面的な取組により創出される「万博レガシー」の継承を見据えて、戦略を推進する。

また、インバウンド観光が復活するまでの当面の間は、国内観光の需要喚起に向けて取り組むとともに、受入環境の整備、情報発信などを中心とした取組を進めることとする。

なお、インバウンド観光の回復状況や社会・経済情勢の変化に起因する新たな課題等に対応するため、計画の見直しの際には、戦略や取組の追加・修正等を行うこととする。

戦略１　文化をはじめとする多様な関西の魅力を活かした持続性の高い観光の推進

有形・無形の文化財をはじめ、暮らしに息づく伝統文化や生活文化、四季折々の自然、多彩な食文化などの観光資源を活かしたテーマ観光やストーリー性のある観光メニューづくりに取り組み、関西広域への来訪者の周遊を促す。

また、観光客の分散化や一部観光地の過度な混雑の解消のほか、観光資源・文化資源の保全により、観光客、地域住民、観光事業者の三者がともに満足し、地域活性化につながる「三方よし」の質の高い観光を実現する。

さらに、外国人観光客へのホスピタリティを高めるための人材育成のほか、災害時における情報提供など、安心・安全な旅行環境の整備を推進する。

（１）文化を活用した「ＫＡＮＳＡＩ」ブランド力の向上と情報発信

- 「世界遺産」や「日本遺産」、「ユネスコ無形文化遺産」に登録されている関西の豊富な文化資源を共通するテーマやストーリーで結び、その価値を広く国内外に発信することにより、「文化・観光首都」としての関西のブランド力の向上を図る。
- 「関西文化.com」や「関西祭.com」等をリニューアルし、関西の文化施設や地域の祭り、文化財 VR コンテンツ等の情報をライブラリー化し、国内外に発信する。
- 食文化の歴史やレストラン、レシピ等の情報を掲載した関西郷土料理サイトを制作する。
- ユネスコ無形文化遺産にも登録された「和食」など、日本食・食文化の発信を強化するとともに、関西各地の「食材」、「習慣」、「伝統」、「歴史」などによって育まれた食を楽しみ、食文化に親しむ「ガストロノミーツーリズム」を推進する。
- 「新時代の文化・観光首都の創造」に向け、「はなやか関西」なども用いながら関西のブランドイメージの一層の向上を図り、関西の魅力を海外に発信する。

（２）文化財・生活文化等の観光資源化

・　庭園や建築物、古墳等の歴史遺産をはじめ、未指定・未登録を含む様々な文化財を物語として設定し、観光振興につながる付加価値の高いコンテンツとして作り上げる。

・　茶道・華道・書道、伝統工芸、祭り等の日本の伝統文化による体験型観光を推進する。

・　構成府県市と連携して、将来にわたって持続する景観を意識した観光資源の保全を図る。

（３）「歴史・伝統・文化」等による観光の推進

①　地域資源の活用に関する取組

・　関西の多種多様な資源を共通のテーマで結び、各地を巡る「テーマ別観光」を推進するとともに、同じテーマを持つ地域間による勉強会の開催など連携を進める。

（共通テーマ例）

「酒蔵」、「ロケ地」、「水」、「近代化産業遺産」、「建築」、「絶景・奇景」、「古墳」、「歴史上の人物」、「巡礼」、「マンガ・アニメ文化」など

・　観光に伝統産業、漁業、農業、製造業、環境など観光以外の分野の価値を付加し、観光資源の拡大を促進する。

・　関西各地の魅力的な朝や夜の体験コンテンツ、四季折々の見どころなどを発信し、滞在期間の延長や訪問時期の分散化を図り、観光客の再訪を促す。

・　サイクリングなどの「する」スポーツやプロスポーツなどの「見る」スポーツをテーマとして捉え、広域観光周遊ルートと組み合わせた観光ルートの提案などの情報発信等により、スポーツ・ツーリズムの推進に取り組む。

・　地域の様々な文化資源をテーマでつなぐ「文化の道」事業を展開する。

・　関西に立地する、国等の公的施設、大学、民間企業等のミュージアムなどの文化施設等と連携の強化を図り、「関西文化の日」の充実、多言語による情報発信を行うほか、関西文化パスポートの発行を検討する。

・　関西各地の文化施設・文化財等において、観光客がその価値を理解し、楽しむことが可能となるような質の高い説明･解説を整備するとともに、民間事業者とも連携し、特色のある飲食・宿泊施設を併設するなど、観光資源としての競争力を高める取組を支援する。

②　「広域ルート」など広域周遊に関する取組

・　観光客の関西広域への周遊、新しい滞在圏の形成を目指す広域周遊観光ルート「THE EXCITING KANSAI」の磨き上げ、受入環境の整備を行うとともに、商品化につなげる取組を進める。

・　関西国際空港での情報発信の強化や、関西以西の西日本各地と連携した関西発着の新たな広域観光ルートについて検討する。

・　関西の空の玄関口である関西国際空港及び地方空港へ就航する国際便や、関西各地に寄港するクルーズ船と連携し、誘客を図る。

・　関西広域での周遊観光を促進するため、「山陰海岸ジオパーク」、「南紀熊野ジオパーク」を巡る旅行商品の造成と、ジオパークのプロモーションを進める。

・　自動車やモーターサイクル等多様な交通手段によって、旅の移動手段も楽しむ周遊観光を促進するための情報発信を行う。

・　国立公園や国定公園を活用した周遊観光を促進するための情報発信を行う。

（４）観光に従事する人材の育成

・　通訳案内士と宿泊施設などの観光事業者とのマッチングを強化するとともに、情報交換等のネットワークを形成し、通訳案内士の活躍の場を拡げる。
・　通訳案内士等に対し、更なるスキルアップに向けた研修を実施するとともに、文化など多様な観光資源に関する情報を提供する。
・　関西の観光関連事業者間の連携や新たなビジネスチャンスの創出を促し、インバウンド需要をさらに活性化する。
・　構成府県市等と連携し、関西の文化や文化財について、その精神や本質的価値を説明することができる人材の育成を進める。
・　観光関連事業者における学生等のインターンシップの機会の創出を促進する。

（５）安心・安全な旅行環境の整備

・　災害等の緊急時に備えて、広域防災局とも連携し、関係施設の協力を得て、一時滞在施設や備蓄品の確保、適切な情報提供、帰宅困難者支援などの環境整備に引き続き取り組む。
・　感染症対策等を踏まえた安心・安全な「新しい旅のエチケット」の普及を図るなど、関西の安心・安全の取組に関する情報を提供する。

戦略２　関西の観光・文化分野におけるDXの促進

構成府県市等が有する観光・文化に関わる各種データの共有・活用を検討するとともに、マーケティングや情報発信においてDXを促進する。

また、AR、VR等の技術を活用し、観光・文化資源のコンテンツ化や交通利便性の向上を促進・支援する。

（１）効果的なマーケティングの実施

・　構成府県市等が保有するデータを共有、活用する仕組みの検討や、関係団体等との連携を進める。
・　国・地域別、階層別などターゲットに応じたプロモーションが実施できるよう、ICTを活用した旅行者動向把握に係る全国基準のデータ蓄積・分析ができる体制の構築を国に提案し、活用する。

（２）新技術の活用

・　オンラインでの人とのやり取りが増えたことで注目が集まるメタバース（仮想空間）において展開される仮想観光コンテンツ等のVR（仮想現実）体験や既存の観光コンテンツとAR（拡張現実）の融合による新感覚のプロモーションに取り組む。
・　観光客のICT利用実態も踏まえ、「The KANSAI Guide」等の掲載情報を強化するほか、SNS等も活用し、関西エリアの魅力ある情報を効果的に発信する。

・　「関西文化.com」や「関西祭.com」等をリニューアルし、関西の文化施設や地域の祭り、文化財 VR コンテンツ等の情報をライブラリー化し、国内外に発信する。(再掲)

（３）交通アクセス等の利便性向上

・　「大阪・関西万博」に向け、交通事業者による空港・駅・バスターミナルなど交通アクセスの利便性の向上や広域的な MaaS の推進に関する取組に協力する。

戦略３　多様な観光客への対応

誰もが安心して関西の観光を楽しむことができるよう、食や宗教、生活習慣などに対応できる環境の整備を図るとともに、多様なニーズや旅行スタイルに応じたコンテンツの創出に取り組む。

また、社会潮流の変化に伴って新たに生まれる観光ニーズへの適切な対応にも努める。

（１）生活習慣や文化の違い等に配慮した受入環境整備

・　「大阪・関西万博」の開催時には世界中から外国人が関西を訪れることを想定し、ハラール、ベジタリアン、ヴィーガンなど多様な食習慣を持つ外国人観光客等の受入環境整備を進めるとともに、礼拝場所の情報提供や観光案内標識等の多言語対応、ピクトグラムや地図の活用など、外国人観光客等にわかりやすい環境整備を進める。

・　観光地、宿泊施設、公共交通機関の各場面において、訪日外国人旅行者がストレスフリー・快適に旅行を満喫できる環境の整備を図るため、多言語での観光情報提供機能の強化、キャッシュレス決済の普及等に関する取組の促進を図る。

（２）多様なニーズへの対応強化

・　ワーケーションやブレジャー、ユニバーサルツーリズムなど多様なニーズに応じた関西における受入地域等に関する情報を発信する。

・　特別感、上質感のあるサービスを求める観光客のニーズに対応した体験コンテンツ等の創出に取り組む。

・　将来の観光リピーター獲得の効果が期待できる訪日教育旅行について、地元の産業の体験を旅行のプログラムに組み込むなど、内容の充実を図るとともに、関西としてのプロモーション活動を実施する。

・　インセンティブ旅行や海外の大学・企業等による関西の企業見学、工場見学等の実施を支援する。

戦略４　関西文化に親しむ機会の創出

文化庁の関西移転を契機として、文化庁や構成府県市、文化施設等との連携を促進し、関西にゆかりのある文化人の記念となる周年などの機会を活かした取組や、まちづくりに文化を積極的に活用する取組を支援することで、関西文化に親しむ機会を創出する。

また、関西の強みである「世界遺産」や「日本遺産」などを有する地域が相互に交流し、互いに文化活動を高め合うことで、関西の文化力の向上を図る。

（１）関西文化の振興と連携促進

- 文化庁や構成府県市との連携のもと、「古典の日」の取組をはじめ、歴史や伝統ある関西の多彩な文化を全国に広げる取組を戦略的に進める。
- 近松門左衛門没後 300 年など、節目を契機とした文化芸術の振興を図る。
- 文化の力を基盤としたクリエイティブな都市・まちづくりなど地域文化資源を積極的に活かす構成府県市の先進的な取組を支援する。
- 関西に立地する、国等の公的施設、大学、民間企業等のミュージアムなどの文化施設等と連携の強化を図り、「関西文化の日」の充実、多言語による情報発信を行うほか、関西文化パスポートの発行を検討する。（再掲）

（２）連携交流による関西文化の一層の向上

- 「世界遺産」や「日本遺産」、「ユネスコ無形文化遺産」に登録されている関西の豊富な文化資源を共通するテーマやストーリーで結び、その価値を広く国内外に発信することにより、「文化・観光首都」としての関西のブランド力の向上を図る。（再掲）
- 歌劇場や球場など関西各地の歴史的、文化的背景のある施設等を通じて、関西の魅力を発信する取組を推進する。

戦略５　関西文化の次世代への保存・継承と発展

全国の国宝や重要文化財の約 5 割が集積し、伝統文化や生活文化の流派等が多く存在する関西の強みを活かした取組を図るとともに、文化活動の裏方など表舞台とは異なる活動に触れる機会を創出するなど、次代を担う子どもに文化体験を提供することによって、文化を支える活動への関心を高め、次代の文化を担う人材の育成を図る。

また、関西で活動するアーティストや文化芸術を活かした取組などへの支援情報を一体的に提供することや文化と他分野との連携を促進することで、文化活動への支援や文化の次世代への保存・継承と発展につなげる。

（１）関西文化の次世代を担う人材育成

- 文化財修復現場や祭りなどの用具等の専門家による解説や見学、劇場の舞台裏見学など、関西文化の裏方に触れる機会の創出に取り組む。
- 文化庁等と連携して関西各地の伝統芸能や生活文化等に関するレクチャー動画の制作や関西で活躍する能楽師や歌舞伎役者、茶道、華道等の家元など文化芸術の専門家を講師とした親子体験講座等を開催する。
- 地域の歴史や文化、伝統などに深い知識を持ち、説明、案内、交流するボランティア等の人材育成を進める。

（２）関西の文化活動への支援

- 文化庁等と連携し、国連やユネスコ等の国際機関が開催する国際会議等の誘致やアジア支局の関西への設置等に向けた取組を促進する。

・　補助金、相談窓口、イベント会場、開催イベント等の情報提供や、動画での作品配信等、文化芸術活動を行う者を対象とした支援情報サイトの充実を図る。
・　アーティストと企業などの多分野交流を強化、支援し、新たな文化創造や、文化を活かした新たなビジネス創出、まちづくり等を促進する。

戦略６　「大阪・関西万博」等を活用した観光・文化の推進

関西広域連合が出展する関西パビリオン（仮称）を『観光・文化のゲートウェイ』とし、「いのち輝く未来社会のデザイン」という万博のテーマを通じて万博と関西各地とが結ばれるよう、テーマを体感できる関西各地の魅力を万博会場で発信し、関西広域の周遊を促進する。また、「大阪・関西万博」の開催に向け、関西広域の周遊を促進できるよう環境整備に努める。

また、万博での取組を一過性のものとせず、ハード・ソフト両面にわたる多面的な取組により創出される有形・無形の「レガシー」を活用し、万博後も持続性の高い観光の推進に努める。

（１）「大阪・関西万博」参加者等に対する広域周遊の促進

・　『観光・文化のゲートウェイ』である関西パビリオン（仮称）において、関西各地の歴史、伝統、自然との共生に根付いた文化や生活様式などを「いのち輝く未来社会のデザイン」という「大阪・関西万博」のテーマでつなぎ、その魅力を発信し、広域周遊を促進する。
・　「大阪・関西万博」の期間中に、MICE や祭り、文化財の特別公開、アーティスト・イン・レジデンスなど多様なイベント等の関西各地での実施を促進する。
・　関西に立地する、国等の公的施設、大学、民間企業等のミュージアムなどの文化施設等と連携の強化を図り、「関西文化の日」の充実、多言語による情報発信を行うほか、関西文化パスポートの発行を検討する。（再掲）

（２）「大阪・関西万博」に向けた環境整備等

・　「大阪・関西万博」に来訪される方々に関西各地への周遊を促すため、スマートフォンアプリや万博開催前に設置される関西広域連合の web パビリオン等を活用し、国内外に向け、文化をはじめとする多様な関西の魅力発信を行う。
・　「関西文化.com」や「関西祭.com」等をリニューアルし、関西の文化施設や地域の祭り、文化財 VR コンテンツ等の情報をライブラリー化し、国内外に発信する。（再掲）
・　「大阪・関西万博」に向け、交通事業者による空港・駅・バスターミナルなど交通アクセスの利便性の向上や広域的な MaaS の推進に関する取組、国等が進める関西の「海」のツーリズム化の取組に協力する。
・　「大阪・関西万博」の開催時には世界中から外国人が関西を訪れることを想定し、ハラール、ベジタリアン、ヴィーガンなど多様な食習慣を持つ外国人観光客等の受入環境整備を進めるとともに、礼拝場所の情報提供や観光案内標識等の多言語対応、ピクトグラムや地図の活用など、外国人観光客等にわかりやすい環境整備を進める。（再掲）

・　通訳案内士等に対し、更なるスキルアップに向けた研修を実施するとともに、文化など多様な観光資源に関する情報を提供する。（再掲）

（３）「大阪・関西万博」のレガシーの活用

・　「大阪・関西万博」の開催に向けて整備される多様な交通インフラや周遊アプリなどを活用し、更なる関西広域の周遊を促進することで、関西各地の地域活性化を図る。
・　「大阪・関西万博」開催中に関西を訪問した海外メディアとネットワークを構築し、効果的な情報発信を行う。
・　今後開催されるワールドマスターズゲームズの参加者を、万博に向けて整備された広域周遊環境を活用し、関西各地への誘客につなげる。

戦略７　推進体制の確立・強化

「新時代の文化・観光首都の創造」に向けては、関西広域連合、構成府県市、経済界、その他の関係団体が、それぞれの強みを最大限に発揮し、役割分担しながら取組を進めることが不可欠である。

観光分野においては、「大阪・関西万博」の開催を見据えて、広域観光の推進役である関西広域連合と関西観光本部が協働して関係団体の取組を促し、それらの連携を支援すること等を通じて、官民が広域観光の目標を共有して連携する「ONE 関西」で、関西広域の国際観光を推進することとし、文化分野においては、文化庁と連携して文化活動等を支援するプラットフォームを強化し、関西における総合的・戦略的な文化振興策を推進する。

また、関西広域連合内においても、広域防災局、広域産業振興局、広域環境保全局の各分野事務局との連携も図りながら取組を推進する。

（１）関西文化を支えるプラットフォームの活用

・　関西文化の振興策を検討・提案するプラットフォームである「はなやか関西・文化戦略会議」の一層の強化を図る。
・　文化庁をはじめとする国省庁や文化関係団体、経済界、大学等と連携した「文化創造・交流プラットフォーム」を構築し、多様な交流を進め、関西から次世代の新しい日本文化を創造し発信する。
・　関西広域連合と文化庁の事務担当者レベルの会議を定期開催するなど、関西広域の文化振興における連携の強化を図る。

（２）関西広域の国際観光推進

・　世界における「関西」の競争力を高めるため、関西広域連合とともに広域観光を推進する中心組織である関西観光本部の国際観光推進体制の強化を図るとともに、これに必要な財源の確保、組織体制の強化等により、運営の安定化を図る。
・　関西広域の国際観光振興事業の実施において、構成府県市、関西観光本部、地域 DMO 等との連携強化を図る。
・　国際観光に関連する産官学連携を強化するほか、観光庁や日本政府観光局、（一財）

自治体国際化協会、構成府県市等の姉妹・友好提携自治体、日本の在外公館、駐日外国公館などとの連携を図り、国際観光を推進する。

（３）関西広域連合の各分野との連携

・　広域防災局と連携し、災害など非常時における外国人観光客の安心・安全な旅行環境の整備を図るほか、広域産業振興局、広域環境保全局等とも連携し、産業観光、エコツーリズムなどの取組を推進する。

・　関西で開催される大規模国際会議等の開催地とも連携し、会議の参加者等に対して観光、産業、環境など広範囲の情報提供に努める。

Ⅴ　計画の目標

これまでに目標として設定していた指標である「訪日外国人旅行者数」、「外国人旅行消費額」、「外国人延べ宿泊者数」に加え、例えば「観光客のリピーター率」、「滞在日数」など質を重視した観光指標の導入や人材育成、観光・文化による地域や他産業への貢献度、観光・文化と他分野との連携など、多方面から指標を検討する必要があるが、新型コロナウイルス感染症の影響やインバウンド観光の回復時期等が見通せないため、今後計画の見直しを行う際に、指標及び目標値を設定する。

インバウンド回復までの緊急対応

インバウンド観光が復活するまでは、構成府県市や関西の交通機関等とも連携し、国内観光の需要喚起に向けた情報発信などを実施する。

特に、日本で暮らす外国人は海外との架け橋となることから、在日外国人への情報提供をはじめ、その視点や影響力を活用した取組を推進する。

また、インバウンド観光客の受入れの再開時には、感染防止対策などの情報を発信するほか、広域周遊の特典や割引などのキャンペーン事業の実施など「ONE 関西」で総力をあげて取り組む。